

見通しをもって、落ち着いて学習や遊びに取り組む子をめざして

田 中 信 子

はじめに

本児は、日常生活にはほとんど支障がない程度の会話ができる。しかし、勝ち気で人に負けたくない気持ちが強いいため、時と場にあっていない行動が見られた。また、正しい言葉遣いを知らなかったり、語彙が少なかったりするため、相手に自分の気持ちを上手に伝えられないこともあった。

そこで、本児の持っている人と関わりたいという気持ちを大切にしながら、見通しをもって行動し気持ちがことばでコントロールできるような自分づくりをめざした取り組みについて述べてみたい。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和58年5月17日生 11歳6か月 小学部5年 男子
- ・正常分娩 体重2470g 首のすわり2か月 歩行16か月
- ・昭和58年9月斜視に気づき県立T病院に入院しCT・脳波検査の結果、孔脳症と診断される。
- ・鳥取市立M保育所（3年間保育）
- ・本校入学6歳10か月
- ・家族は両親と妹の4人家族 昨年より父親が単身赴任・本児は母親から頼りにされている

(2) 諸検査による実態

津守式乳幼児発達検査（平成6年4月実施）

- ・津守式乳幼児発達検査では、5:6～7歳以上の発達を示している。

運 動	探 索	社 会	生活習慣	言 語
6:0	5:6	7:0以上	7:0以上	6:6

- ・WISC-R知能検査（平成6年11月実施）
言語性IQ (VIQ) 61 動作性IQ (PIQ) 44 IQ49で言語面が優れている。

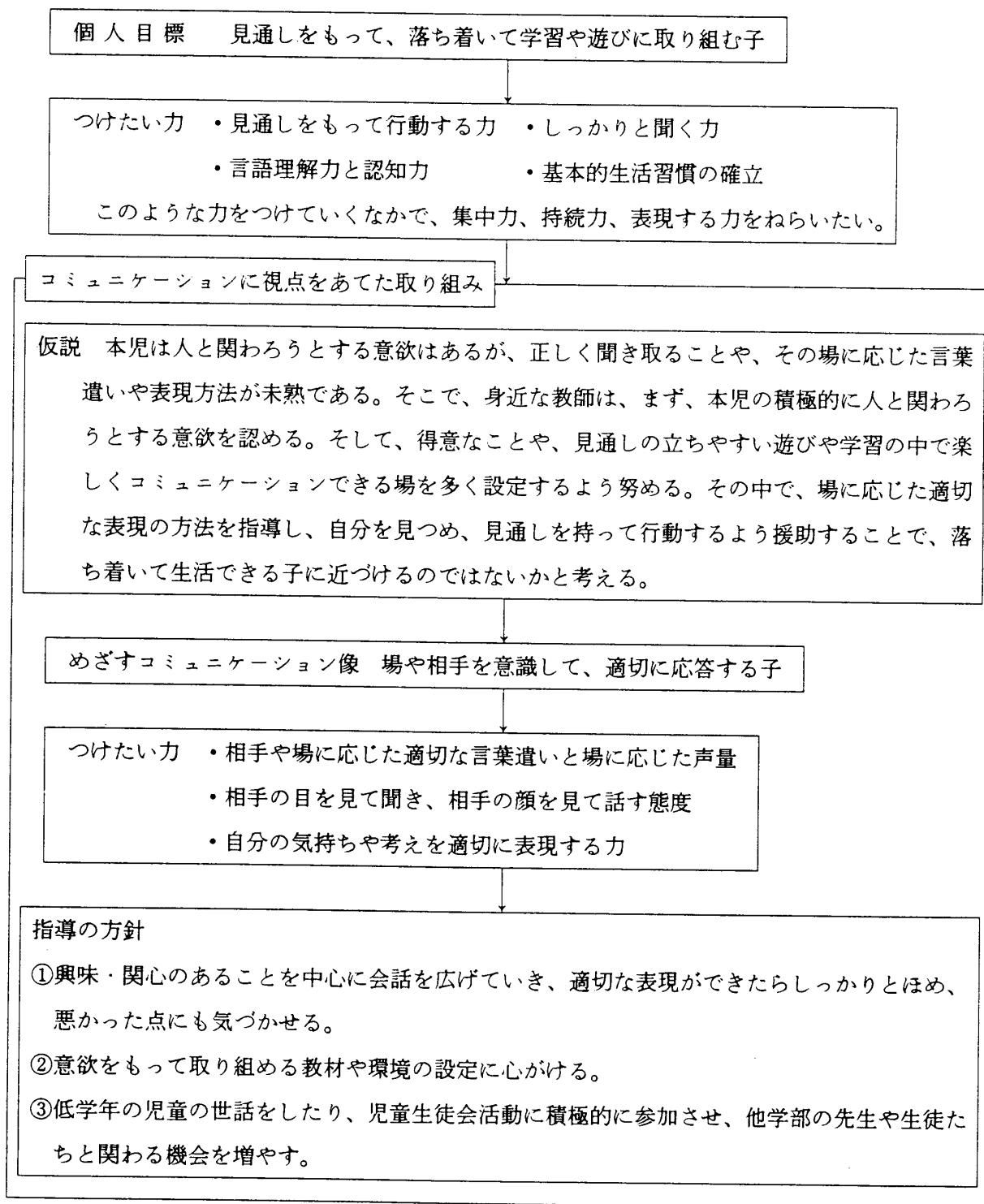
(3) コミュニケーションに関する実態

- ・日常生活に支障がない程度の会話ができる。
- ・書き言葉は、促音・拗音がぬけることが多く、カタカナや簡単な漢字に興味・関心を持っている。

(4) 行動特性

- ・競争心が強く、何とか1番になろうとする。
- ・友だちと関わって生活することができるが、自分の思いと違ったり、つまずいたりすると立ち直りにくい。
- ・正義感が強く、友達のいたずらが許せない。
- ・自分より、年下の友だちや立場の弱い子に対しては、優しく接することができる。

2 取り組みの構想



3 指導の実際

(1) コミュニケーションの意欲や技能を高めていった実践

・学習発表会

学習発表会は本児にとって見通しが立てやすくこれまでも喜んで活動してきた活動のひとつである。高学年となった本児は劇「小人のくつや」のくつやの弟役になった。この役は台詞も多く、感情を込

めて表現できる場面のたくさんある役であった。この学習についての取り組みを以下の表にした。

	ねらい	学習活動の様子
結団式	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年のことを思い出して進んで発言する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年までの経験をもとに今年は何にしようかと考えて意見を出していた。「小人のくつや」は、妹がした劇なので妹よりも上手にしたいという本児のちょっとしたつぶやきなどを補助的指導者が全体の発言にできるように補助していった。
通し練習	<ul style="list-style-type: none"> • 劇の流れを知る。 • 台詞を覚えて、気持ちを込めて表現する。 • 指導者をしっかり見て、まねをする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の出る場面をよく覚え、自信を持って練習した。学習の見通しをもち、家での練習や道具作り・案内状作りにもいきいきと活動し、クラスをリードしていった。 • 兄の役の友だちの台詞を覚えていて、その友だちが忘れた時に教えていた。相手に気を使いながら上手に教え、2人で協力しながら演技の練習をしていた。
発表会当日	<ul style="list-style-type: none"> • 大きな声で台詞を言い、動作をつけて表現する。 • 落ち着いて、自信を持って演技する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 練習の成果を、多くの人に見てもらおうと張り切っていた。家の人だけでなく、仲の良かった卒業生にも見に来て欲しいと声をかけていた。 • 途中で台詞を間違えたことに自分で気がついたが、慌てたり、気落ちしたりすることなく落ち着いて劇を続けた。



「小人のくつや」の劇を演ずるO男

• 遊びの時間

本児は、自分たちでいろいろと工夫することができる遊びの時間をすごく楽しみにしている。2学期のお店やさんごっこでは、ラーメン屋さん、お寿司屋さん、たこ焼き屋さんなどやりたいお店のアイデアをみんなの前でどんどん出していった。お店で使う品物や看板・道具の製作も自分たちで話し合っ



楽しく遊んでいるO男

(2) コミュニケーションの対象の広がりをめざした実践

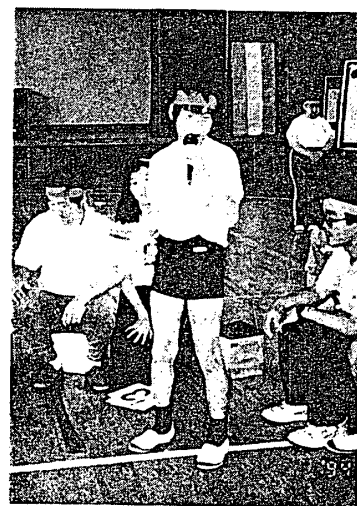
・児童生徒会活動を通じた広がり

活動への意欲は旺盛で、友だちとの関わりを楽しむことができる力をもっている本児にコミュニケーションの力を高める働きかけの場として、児童生徒会活動の場は大変に有効であった。前期は自分から進んで学級委員長に立候補した。代表委員会では、進んで自分の意見を言うことができた。後期は美化委員長になり児童生徒集会では落ち着いて委員会の活動を発表することができた。代表委員会が昼休みにある日は給食後T男と協力して教室の掃除を早くすませ一度も遅れることがなかった。学習発表会のポスターを湖山西小学校に代表として持っていった時も、きちんと挨拶をすることができた。このようなコミュニケーションの場の広がりとともに話し合いのルールがだんだん身につく、人の話をよく聞いて挙手をしてから発言することが多くなった。また、相手の顔を見て話したり聞いたりすることも多くなり、物おじしないで自分の思いが言えるようになってきつつある。

・休憩時間での広がり

本児は、サッカーが大好きで少しでも時間を見つけると、ボールをけて遊んでいた。1学期はクラスの友だちが主だったが、2学期になると、同じクラスのA男だけでなく2組のE子やA子もよってきて一緒に廊下でボールをけるようになった。柔らかいボールを使ったり、相手の力に合わせてけったり、「次は～さんの番」といって交互に相手になるなど、友だちのことを考えながら遊べた。

昼休憩には、中学部の友だちを相手に思いきり力を出してサッカーを楽しんだり、高等部の先生に相手になってもらったりしている。家庭に帰ってからも、近所の中学生に自分の方から声をかけて、遊んでいるとのことである。



ゲームの説明をしているO男

4 考察と今後の課題

本児は自分の得意なことや好きなことを通して自信をつけ、見通しを持って落ち着いて行動することが多くなった。自分のことばかり考えるのではなく、友だちの力に合わせた遊び方や場に応じた発言の仕方などを次第に身につけ、学部のリーダー的な自覚を持って行動できるようになってきつつある。勝負にこだわったり、何かを注意されたことで落ち込んだりすることも少なくなってきた。また、コミュニケーションの対象も自分から広げようとしている。

今後は、今もっている何にでも積極的に向かう意欲を損なわないようにしつつ、コミュニケーションの力をさらに高め、他からの規制ではなく自分自身と対話することによって周りとの調整を図っていく力をさらに確実なものとした自分づくりをめざすようにしたい。そのためには本児の力に応じた適切な場や課題を与えていきたいと考えている。